2017　バリアフリー展レポート

Date

・2017/04/21

講演者

・栂紀久代

Profile

・栂右衛門

なかなかどこでも行くということができず困っている。

流れ

熊本地震から始まる

要介護者のための併設避難所の必要性を感じている。

ボトムアップは必要

熊本学園大学は人が集まってきたので場所を提供することに。

避難場所に指定されていなかった。

柔軟性は必要である可能性。

今回の事象に関して情報展開は今後行っていくということ。

被災地障害者センターくまもと

機器機材を誰でも平等に使えるようにするように

高さのバリア

幅のバリアに気にして行動することは大切である

知識教育

EQを高める活動をやっているだろうかという。

知らない顔をして過ごしていないだろうか

あって当たり前のものとして行動していないだろうか

スマホ歩きスマホはやっていないだろうか

阪神大震災のときにブルーシートを持ってお弁当もって行っていたのが初めだった。

一番はじめは、50ccのバイクにのって行動していた。

車椅子を購入してからちゃんとした歩道を通っていたときに車から

「うろちょろするな」

と言われていた。

だから言い返した。

「引けるなら引いてみろ」

負けていられない。

負けていてはだめだということ。

（頑張っている。）

今はだいぶ良くなり、よくあってくれている人にはありがとうとにっこり笑って発言している。

今私達は、防災の中に人が含まれていることを忘れていないだろうか。

人が行動することで防災できることもできる。

防災バンダナ

と援助バンダナがある。

バンダナで助けられ上手になりましょう。

社会貢献のパスポート。

笑顔経済学と名付けました。

笑顔を頂けるお金の介在しない経済

ありがとうは笑顔を生み出す魔法の言葉

ごめんなさいは心を溶かす魔法の言葉といわれいる。これは講演者の友達のじょせいカメラマンの言葉だ。

笑顔生み出したら笑顔を生み出したくならないだろうか。

人づくりまちづくりの人のなかに参加することができる

仕組みづくり

メーカーは器械を作っている

仕組みを作っていく際の仕組みとして、こんな仕組みを与えてみてはどうでしょうかということを提案したい。

点滅したら点滅した情報展開することがあります

青色の点滅でやっている

赤以外の色でやってほしい。

聴覚情報の人には光でお知らせ

視覚障害には音でお知らせ

重度障害の方

蓄電池ソーラーで充電できるようになっている。

常にソーラでためておいてほしい

これだけでかなりの光を与えることができる

電源を仕様するときにでもです。

人工肛門の方のTOILET

健常者が入れるTOILET

車椅子の人が入れるTOILET

電動車いすの方が入れるTOILET

熊本にはなかった。

だけど地位がほしいわけでなく名誉が欲しいわけでなく、

自治体に渡した、上がいわないからいいやろう

地域からのボトムアップが必要であると

ボトムアップ型で今は地域密着型であげていく。

なぜか地域の声が政府の声になる。

出来なければできるように考えなさい。

やったらできる。やらなければやれない。

地域は連携して勧めていくしかないということそれをユニバーサルデザインを使用して勧めていきませんか？

情報の伝達と収集。

公助

共助

自助

これらをつなげる

防災8桁マップネットで検索して位置情報を確認していきましょう。

ドラえもんは行けても栂右衛門はいけない。

いいものは知ってもらおう。

普段から少しづつ意識するだけでいいんです。

一つは自分のためにもう一つは誰かのために

分かる人が変わって伝えたらいいじゃないですか。

私の方だとか肘だとかを使ってください。

お手伝いしてください。のバンダナボタンつけてください。

って言われたのでボタンつけました。見守りベルって物があるんです

突然言いました。

スタッフが走り出します。

突然いうと取ってきてくれるんです。

カウベルのベルを使ってます。

歩きスマホの人に伝えるためです。

満員電車に乗っていたら気づきません。

埋もれてるんです。

鳴らすだけで気づいてもらえるんです、見守りベルはいい音がなります。

自分から発信することの大切さ

カウベルの音はすごく音がきれいでよく通る。

電子音はあまり遠くに聞こえない。

人ガ喋ってくれる人がいたら厳しい

車椅子が呼びかけたら電車の人に伝わるようにしたい。

ゴムを下げると聞こえにくくくなっている

ゴムを外すと音がよく通る

音を拡大させるのは大切

障害当事者が協力してくれました。

松下智子さんなどいろいろな人がたすけにきてくれました。

だけど殆どの人がしらない

誰も持ってきてくれない情報は取りに行くしか無い

避難準備情報はだれも送ってくれない

避難準備情報で高齢者や障害者は避難するのかと言われた。

避難準備情報の名前を変えてだれが動きますか

数字で与えるわかりやすい情報に変えていく

段階的に考えるように変えていく仕組みづくりを変えていくとわかりやすくなると考えている。

カウント5から始まります要援護者。避難所開設する

カウント1自分の命だけを守りましょう

余裕があるうちはみんな助けてくれる可能性がある、

11ページ、12ページんｐ内容のお話もしているのでその話もしましょう。

食べ物、水、安全

食べただけでいいのか

マンションの安全を考えようとなっている。

２１Ｆに住んでいたらどうするか

階段で降りるのか

エレベータは必ず動いているだろうか

これだけして大丈夫ということはない

想定外をなくす

想定外をできるだけ取り組む

時間経過を追って考えてください。

朝ならどうするかなど公式ガイドブックの21pの左の下に情報伝達の7W2Hを参考に考えてほしい。位置情報の収集と伝達。おばあちゃんのお寺周りについていっていた。

年寄り笑うな。行く道じゃ。若者笑うなきた道だ。

これから行く道今日の道

通り直しはできる。

いや、出来ないこともある

もし戻れるなら交通事故の前に戻りたい。

パパやってと主人に伝えるだけ。

今までできていたことを誰かに伝えることはできる。

渡しができることは最大限やる、バカな人が一人くらいいてもいいのではという

バカと今日の朝も言われました。

臨死体験した人も車椅子に座ってという人も一つしか無い命守って欲しいと表いる。

涙がでる。

皆さん提案できる人であってほしい。

こういうルール作りができる人をできるような人になって欲しい。

もしものときは土足でも上がりますよというルール

それはなぜかモノが落ちていたら危険だからそれは命が大切だから。

たったひとつの命大切にしていけたらいいと思います。

質問

Q1

私も視力障害がって防災のことにも携わっているんです。

防災に参加してくれないかといって行ってるんですが、みんないかない。

個人の自由に介入しないでほしい。

ただ、私たちは法っておけない。

私達の態度はどうすればよいだろうか。

11月のはじめに警察、消防、自衛隊はきてくれたのだけど、どうすればいいいだろうか。

繰り返し繰り返し訓練することが大切7年やっていても知らない人がいます。

西淀川区でやっています。

偉い人にもバッヂ外してやってもらいました。

要援護者に何度行ってもやってもらえない。

順番に巻き込むしか無い。

そんなことしていられるかと言われているが、個別台帳までできあました。

順番に順番に何度も繰り返しやっていきましょう。

減災につながるのでといって

そして、一回いってみたら、なかなかいいものやなと行ってくださりました。

これからも継続して続けてください。

これからも諦めず要援護者の方に声をかけていってあげてください。

今日は長い間お話を聞いて頂きありがとうございました。